

結核とBCG接種について

監修／公益財団法人結核予防会結核研究所名誉所長 森 亨

① 「結核」という病気について

結核は、結核菌が人から人へ感染することで起こります。

わが国の結核患者はかなり減少しましたが、いまだに2万をゆうに超える患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。特に、乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いのでひとたび感染すると、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎ずいまくえんになることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

② BCGワクチン（生ワクチン）について

BCGはウシ型結核菌を弱毒化してつくった生菌ワクチンです。

BCGの接種方法は、かんしん管針法といってスタンプ方式で上腕外側の2カ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に接種するとケロイドなどの副反応が出ることがありますので、絶対に避けなければなりません。

接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種したところをこすったり、ひっかいたりしないでください。

③ BCGの接種時期

生後1歳に達するまで（通常、生後5カ月から生後8カ月に達するまで）に接種します。

④ BCG接種後の経過と副反応

接種後10日頃に接種したところに赤いポツポツができ、3週間後、腫れはと周囲の赤みが強くなります。6週間後にはもっとも強くなり、膿がたまることもあります。2カ月を過ぎると反応はおさまってきて、3～4カ月頃にはかさぶたもとれ、癩痕を残すだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま普通に清潔を保ってください。自然になります。ただし、接種後3～4カ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師にご相談ください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れはたり、また化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。その場合には医師にご相談ください。

⑤ 接種後の反応が早く出た場合

ときに接種後1日ないし5日以内に接種した部位に一つ一つの針痕が赤く腫れ、ときにうみ（膿）をもつような反応を起こすことがあります。この場合には、お子さまが結核菌の感染を受けている可能性があります。これをコッホ現象といいます。この場所の反応自体はその後すみやかに治まっていきますので心配はありません。ただ、お子さまが結核を発病するおそれがありますので、精密検査や予防のための薬を飲む必要があります。そのような反応が見られた場合には、接種を受けた医療機関を受診してください。集団接種の場合には市町村の予防接種担当課に相談してください。

